

令和元年度 第2回社会教育委員会議 概要

日 時： 令和元年6月18日（火）午後2時30分～4時30分

場 所： 逗子市役所5階 第6会議室

出 席： 角田委員（議長）、津留崎委員（副議長）、長坂委員、桑原委員、堀江委員、
松井委員、山田委員、東委員

欠 席： 吉川委員、佐藤委員

事務局： 社会教育課 橋本課長、黒川係長、匂坂、中村、内山（記録者）

傍聴者： なし

資 料：

- 1 教育委員会定例会会議録（令和元年2月、3月）
- 2 令和元年度第1回社会教育委員会議概要（案）
- 3 逗子市社会教育プラン事業進行管理表（図書館活動事業）及び資料
- 4 文化財保存活用事業 資料
- 5 令和元年度社会教育課主催講座実施計画（2019.6.18案）
 - ・ 平成30年度社会教育課主催講座託児実績 資料
 - ・ 平成30年度 講座実施報告（こころのバリアフリー連続講座）
 - ・ 平成30年度分社会教育推進プラン 評価用メモ用紙

●開会

●資料確認

●報告事項（1）教育委員会定例会について

○事：資料1参照。社会教育関係の新年度予算の記述があるので、一読いただきたい。

●議題（１）社会教育推進プラン進行管理について

○委：講座関係事業全体としては、定員に対して応募率が上がってきたように感じた。チラシに関する意見もこれまであげてきたが、その効果もあると思われる。アンケート結果では満足度が総じて高く、講座内容の充実を感じ取れた。あとは、参加者を増やしていけるよう告知の工夫ができればと思う。広報ずしを見て受講する人が多いので、QRコードの掲載などにより、講座詳細に誘導できるとよい。掲示板のポスターは雨風で剥がれてしまうことがありもったいないので、何か工夫ができないものか。

傾聴講座と現代の子どもの育ちにくさの講座では、受講を今後活かしていくことに関心が高い人が多く、次につなげていくためにも、講座のなかで仲間づくりや地域活動の働きかけができればよいのではないかと感じた。

家庭教育講座など託児があって助かったという意見があり、今後も継続してほしい。

コミュニティセンターで開催の出張講座は、同じ講座でも年度によって会場を変えていて工夫されている。趣味の講座は継続希望の方もおり、継続することで地域活動への発展が期待できる。タブレット、スマートフォンは今後も参加希望者が見込まれる。理解しきれなかったとの意見もみられたが、パソコン講座に具体的なコース名があったように、具体的なコースを示すとそれに見合った参加者が集まり、満足度も上がるだろう。

逗子の歴史や文化財への関心の高さを感じた。サードエイジ講座は、受講者がのちに講座を企画する側にまわるというよい流れがあるが、可能なら、歴史・文化財講座の受講者が文化財の保全・管理など、何かの活動に関わっていけるとよい。

○委：図書館活動事業の目標は登録率 50%であるので、その点では 52%となり達成している。しかし、事業概要の目的に書かれていることを見ると、(b)だと感じてしまう。目標達成状況と現状にずれがあると感じるのがプランの厄介なところ。それだけでははかれないだろうというものが目標に設定されている。

注) 社会教育推進プラン管理表上の評価基準：(a)順調である (b)概ね順調である (c)順調であるとみなせない

○事：(a) (b) (c)の評価は、目標に対する評価として判定いただきたい。それ以外の具体的なご意見は、意見欄に記載させていただきたい。

○委：目標値に対する評価だけでは、中身の評価になっていかないので意味がないと感じる。目標を立てることが意味を持つのは、年々前進しているかどうかはかれるからである。

この委員会では中身についての評価をしていきたいのだから、(a) (b) (c)の評価とは別に、何が課題であるのかをしっかりと書き残しておかないと4年ごとの見直しが意味のないものになってしまう。

○委：図書の貸出数 18,000 冊あまりの減少はかなり多いと感じる。開館時間短縮と駅のブックポスト廃止以外の理由があるのではないかとと思われる。

○委：公共図書館の役割は今世界的に問われており、国際的に新しい試みが行われている。その背景には、本を借りるのでなく情報をインターネットから得ていくという、情報化の構造変化、情報との接し方の変化がある。そこで、インターネットから書籍に近づけていく努力が世界で行われている。開館時間短縮の要因もあるかもしれないが、基本的な社会の変化を認識して、そのなかで逗子としてどう取り組んでいくのかを本格的に検討していくべきだと考える。

○委：プランの目標を変更できないのかなどという話は以前から出ているが、そのような意見はどこかに吸い上げられているのか。

○事：プランの進行管理のあり方や根幹に関わることで、本来は評価に関することのみをあげるとされているが、計画所管である企画課への提出様式にはあげておく。

○委：現在は具体的な意見を述べることで、4年ごとに改善されるための資料作りをしていると考えて評価を行うしかない。

○委：すでに目標を達成したなら、その段階で新たな目標設定が必要だろう。

○委：アンケートに記載されている、今後受けたい講座のテーマは毎年見直して変えていくのが妥当だろう。アンケートの回収率が低い講座があるが、回収率を高めるのは重要なこと。共催の場合は、アンケートが大変重要だと考えていることを主催団体に伝えるなどすることで理解してもらい、回収率を高める工夫をする必要もあるだろう。

アンケート結果で素晴らしいと思うのは、70代以上が参加者の35.6%を占めること。テーマや対象を親子にするなど工夫をすれば若い層も参加する可能性はあるが、50歳代以上を概ね対象としているのが現状と言えるだろう。

○委：文化財の講座やサードエイジ講座をみると、逗子のことを知りたいという人が顕在化

してきた印象。高齢者問題、認知症に関する講座が昨年度はなかったが、取り入れてはどうか。また、親子参加の講座はあったが、世代間交流を促すものがなかった。

担い手育成、アクション型の講座としてサードエイジ講座があるが、十分徹底されていくように、委託先にもその趣旨、方針をしっかりと伝える必要があるだろう。

提出いただいた市全体の講座リストは大変参考になった。市民団体の活用をもっとすすめてはどうか。そのテーマに取り組んでいる市内の団体を紹介するなど、手間はかかるがそのようなサービスを含めて広げていくことも考えられる。

○委：ほぼすべての事業で参加者は満足、もしくは大いに満足している。充実した講座であったと言えるだろう。応募が下回ったものもあったが、自分たちも声がかけたのではないかと感じている。アンケートの点数欄は不要という意見もある。4段階程度の大別でよいのではないか。

○委：この委員会のこれまでの積み上げもあり、大きな間違いなどはないだろう。講座の評価も高く、内容も改善されている。これといってすごいものがあるわけではなく、またこれに満足するということではないが、概ね順調にすすんでいると言える。

○委：各種講座事業では、現代的課題にしっかりふみこんで欲しい。児童虐待などを取り上げてよいだろう。地域課題も、逗子市としてだけでなく、久木・沼間など各地域の課題を取り上げることもできる。

○委：講座からアクションにつながるようにと考えているなら、講師にその目的、趣旨を伝えておくのもよいのではないか。伝え続けることも大切である。全体的に前年度よりも相当改善され、充実している。

○事：現代的課題、地域活動、人権など本来社会教育でおこなう必要課題については、そのテーマで逗子で活動している人たちに情報が届いているのだろうかを考える。同じ意識を持つ人たちの地域での活動の流れをつかまえたい。

●議題（2）第1回社会教育委員会議概要（案）について

○事：資料2参照。意見等あれば、今月末までに連絡いただきたい。

●閉会

委：は委員、事：は事務局が発言した内容。